取　組　名	地域と学校、近隣施設で行う津波対応合同避難訓練		
特　　徴	地域の住民と保育園、介護施設、保護者が合同で行う防災避難訓練		
学　校　名	柳井市立柳東小学校	期日	平成３０年１１月５日（月）

１　ねらい

○　地震・津波の発生時に対応する基本行動を理解する。
○　非常事態想定のもとに、安全に避難できるよう集団行動の徹底を図る。
○　地域の方々にも参加していただくことで、防災についての意識の高揚を図る。

２　概　要

（１）地震想定避難訓練（一次避難）

【参加者：全児童、教職員】

・地震発生（「防災柳井市」の放送を受けて、地震発生を想定）
・地震が収まった後に、放送による指示で運動場へ避難（一次避難）

（２）津波想定避難訓練（二次避難）

【参加者：全児童、教職員、校区内自治会長有志、近隣自治会住民、近隣保育園園児と職員、老人介護施設入所者と職員】

・一次避難途中での「防災柳井市」による「津波警報」を受けて、二次避難の指示をする
・二次避難場所へ移動する（保育所は一次避難を施設内で実施し、同時刻に二次避難開始
　老人介護施設の代表は児童と一緒に避難を開始）
・先行する園完了後、校長から講評を行う
・小学校児童代表、保育園園長、老人介護施設管理者、連合自治会長から感想を聞く

３　成果と今後の課題等

本校は、海の近くに位置すると同時に、海抜高度が低いという立地条件にある。そのため、本校に通う児童や職員、そして校区内の住民にとっては、津波への対策を日常的に意識しておくことが必要である。そのため、学校と地域が共同で防災避難訓練を行い、いざという時にスムーズな行動を起こせるよう準備しておくことは大変意義深いことと考える。また、休日に災害が起きた場合に、児童が地域の方々と共に避難行動を起こし、自分で命を守る行動がとれるようにしておくためにも、合同の避難訓練は必要である。今回の訓練では、共通の避難場所を認識できたことが大きな成果と言える。

また、今回の訓練は、平成３０年度内閣府地震・津波防災訓練に合わせて、この時期の実施とした。当日は市内各地で防災意識の高揚のための行事や、防災訓練が行われたが、本校での取組もまた、地域を挙げての訓練という意味合いをもたせ、校区内の自治会長に案内し、近隣の保育園や老人養護施設との共同で行った。

今年度は、二次避難の場所を昨年度よりも低い場所に変更し、海抜１８ｍほどの位置にある駐車場とした。理由は主として次の３点が挙げられる。１点目は、学校から近い場所に避難することで、いち早く避難を完了させるため。２点目は、移動距離を短くすることで移動時の事故を防ぐため。３点目は、本校付近は土砂災害の危険区域にも指定されていることから、その被害を防ぐためである。

当初、訓練参加者が全員二次避難場所に集合できるスペースがあるかどうかが心配であったが、訓練を行ってみて、全員が避難できた上にさらに余裕があることが分かったのも成果の一つである。

課題としては、教室の位置によっては防災無線が聞き取りにくく、災害への対応への初動が遅れてしまうことや、避難後の児童の引き渡しを想定した際の保護者への連絡、実際の引き渡しをどのように行うかということなどが挙げられる。

取　組　名	小中合同集団登校・引き渡し訓練		
特　　徴	小中学校が連携して集団登校及び引き渡し訓練を実施		
学　校　名	光市立光井小学校・光井中学校	期日	平成３０年　６月２１日（木） １０月１５日（月）

１　ねらい

○　自然災害時の状況や犯罪の起こりやすい場所を判断できる力（危険予測能力）を身に付け、場所に応じた適切な行動をとることができる。

○　集団登校において、自他の安全を確保しながら児童を安全に避難場所まで誘導する体験を通して、周囲の人の安全に貢献できる力を養う。

○　登校時間帯に地震等の災害が起こった際の安全管理体制を構築する。

「小学校で登校班ごとの顔合わせ会」

２　概　要

（１）取組の流れ

・全校集会で趣旨説明、趣旨を保護者へ連絡
・小学生の集団登校の集合場所と集合時刻の確認
・実施日の見守りを地域に要請
　（ＰＴＡ理事会、学校運営協議会、広報誌等）
・事前学習
　危険予測学習（学級担任によるＫＹＴの授業）
　危険箇所の確認（ブロック塀）
・地震等緊急放送対応（シェイクアウト）訓練
・小中合同集会で顔合わせ（６月実施）
　（班長・記録係の確認）
・引き渡しカード及び引き渡し訓練参加確認

「グループごとの集団登校」

（２）当日の流れ

□集団登校（６月２１日・１０月１５日）
・登校班毎に集合
・欠席確認
・中学生が危険箇所を確認しながら集団登校
・小学校に到着した班から、到着報告

□引き渡し訓練（１０月１５日）
・１５時にメールを小中で同時配信
・生徒玄関にて引き渡しカードを記入
・引き渡し

「シェイクアウト訓練」

３　成果と今後の課題等

（１）成果

・日常の通学路にある危険箇所を確認する体験を通じ、危険予測への意識を高めることができた。
・小学生を見守ることで、地域の安全に貢献することができた。
・小学生の見本となる行動をすることで、自己有用感や自尊感情を高めることができた。

（２）課題

・年間に２回、集団登校を実施するなかで、地域の見守り体制をさらに強化していく必要がある。
・緊急時の学校対応を地域に知らせる方法や保護者へ引き渡しができない生徒への対応を検討していきたい。

「引き渡し訓練」

取　組　名	緊急時児童引き渡し訓練		
特　　徴	幼・小・中学校合同の引き渡し訓練		
学　校　名	山口市立平川小学校・平川中学校	期日	平成３０年１１月２１日（水）

１　ねらい

緊急時における子どもの安全確保を、幼稚園・中学校・保護者・地域住民と連携してスムーズに行うための訓練を実施し、より安全で安心できる学校の体制づくりを進めるとともに、コミュニティ・スクールとしての体制を整える。

２　概　要

（１）想定

関係機関から「校区内で傷害事件が発生。犯人は校区内にとどまっている可能性が高い。」との連絡を受け、校内、関係機関と協議を行い、保護者への引き渡しを決定した。

（２）当日の流れ

１２：３０　事件発生
１２：３５　対策本部招集・協議
１３：００　学年主任招集　会場等設営指示
　　関係学校・園・地域関係団体へ連絡
１３：１０　引き渡しについての緊急メール配信
１３：３０　児童体育館へ移動
１３：４５　全体指導
１４：００　引き渡し開始
　　※１～３学年 14：00～、４～６学年 14:20～
　　※中学校に兄弟関係のある保護者は小学校で引き取り後、中学校へ移動
　　※幼稚園に兄弟関係のある保護者は幼稚園で引き取り後、小学校へ移動
１５：１５　周辺の交通規制解除（メール配信）
１６：００　訓練終了（メール配信）

３　成果と課題等

（１）成果

昨年度までの実績と反省を生かすことで、短時間で引き渡し体制を整えることができた。また、本訓練は３年目を迎え、保護者への周知も進み、近隣自治会への事前情報提供や交差点での横断幕掲示（訓練実施日・渋滞予想時間帯）、関係者による事前説明会の実施等を行うことで、よりスムーズに引き渡しが行えるようになった。今年度は幼稚園も参加し、地域の警察やコミュニティ・スクール関係者、見守り隊、自治会等の協力も得ることで、学校や地域として緊急時における対応力を高めることができた。

（２）課題等

今年度は隣接する幼稚園と合同実施を行うことで、より実際に即した状況で訓練を行うことができた。しかし、近年多発する豪雨や河川の氾濫に対する準備は十分とはいえない。今後は、自然災害等で体育館が避難場所となることを想定した引き渡し訓練を実施するなど、他の想定においても迅速かつ安全で正確な引き渡しが行えるよう、体制づくりを進める必要があると考えている。

取　組　名	合同避難訓練		
特　　徴	本校避難訓練及び厚狭小学校三次避難の支援		
学　校　名	山陽小野田市立厚狭小学校 県立厚狭高等学校	期日	平成３０年１１月６日（火）

１　ねらい

○　突然の地震とそれに伴う火災発生を想定し、避難場所まで整然と避難する訓練を行うとともに、厚狭小学校全校児童が津波回避のため本校へ避難してくる際、誘導等の支援を行うことで、生徒の防災意識を高め、自助・共助等防災対応能力の向上を図る。

○　本校教職員の火災予防知識の向上と本校の防火体制の整備を図ることにより、防火管理の徹底を期す。

本校生徒による避難誘導①

本校生徒による避難誘導②

２　概　要

（１）取組の流れ

平成２９年度から厚狭小学校との連携で、本校では地震に伴う火災に対しての訓練を行うと同時に、近隣学校である厚狭小学校の地震による津波への対応として厚狭高校へ避難する児童の支援を行うことで、本校生徒の防災意識向上を図るため実施した。

実施に当たっては、地元の少年安全サポーターや山陽消防署、山陽小野田市総務課危機管理室の職員から御指導をいただくことで、生徒及び教職員も防災対応能力の向上を図ることとした。

（２）当日の流れ

９：３８　[厚狭小]放送による緊急地震速報
９：４５　[厚狭小]一次避難完了→児童を本校へ避難誘導開始
９：４５　[厚狭高]放送による緊急地震速報
９：４７　[厚狭高]非常ベル、１１９番通報、避難指示
（並行して消火班の教職員は消防署員の指導の下、消火栓を使用して消火訓練）
９：５７　[厚狭高]生徒避難終了（グラウンド）、点呼・報告
１０：０５　厚狭小児童及び誘導生徒避難終了
１０：１０　指導・講評
（少年安全サポーター、消防職員、危機管理室職員）

少年安全サポーターによる交差点誘導

厚狭高校グラウンドに集合

３　成果と今後の課題等

（１）成果

平成２９年度からの試みで、小学生の避難誘導を支援することにより本校生徒の防災意識をより一層高めるという当初の目的を達成することができた。特に、誘導にあたった生徒は小学生の真剣な訓練の様子に、援助の必要性を改めて感じたようである。

誘導生徒の適正なサポートにより厚狭高校までの避難途中に事故やトラブルもなく、無事安全に誘導することができた。

（２）課題

小学生誘導の際、児童に対する声掛けがまだ不十分であることを市の職員の方から御指導いただいた。誘導生徒だけでなく、教職員も誘導時の安全をサポートする声かけをしっかりと行える指導力の向上が必要である。また、この合同訓練を機に厚狭小学校とその他の連携も模索する必要性を感じた。

消防署職員による講評

取　組　名	日置みすゞ学園を中心とした地域が組織的に連携する防災訓練		
特　　徴	地震発生を想定、津波災害に対応するため、日置地区全体での小・中・市・消防本部・教育委員会が連携した大規模な避難訓練		
学　校　名	長門市立日置小学校、神田小学校 日置中学校	期日	平成３０年１０月２日（火）

１　ねらい

地震が発生したことを想定し、日置地区小・中学校３校と長門市の防災部局等の連携強化を図るとともに、児童生徒の防災意識の高揚を図る。

２　概　要

○　長門市で震度５の地震が発生したため、市は防災対策本部を設置する。
○　市防災危機管理課は、日置支所へ連絡する。
○　各学校で、児童生徒・教職員の身を守る行動を促す。
　・机の下に避難指示、火気及び落下物の安全確認をする。
　・教職員の誘導で児童生徒をグラウンドへ避難させる。
　・避難終了後、人員確認を行い、教育委員会へ避難状況を連絡する。
　・初期消火体験①（消化パネル）
　・初期消火体験②（消化チャレンジャー）
　・初期消火体験③（水消火器）
○　防災研修会（講話）
　・西日本豪雨災害について（長門市消防本部予防課講話）
　・みんなで備える防災活動について（長門市防災危機管理課講話）
　・防災について（長門市警察署講話）
○　災害安全ＫＹＴ資料の活用
　・家庭での地震発生ワークシートに記入し、今日の活動を振り返る。

３　成果と今後の課題等

日置みすゞ学園を中心とした日置地区のコミュニティで行われる災害避難訓練は、非常に有意義であった。地区２つの小学校、中学校の児童・生徒が地震と津波を想定し、避難した後、支所、消防署、警察、教育委員会と連携し、研修会を行うことで、児童生徒の防災意識と自分の身は自分で守るという意識の高まりを感じることができた。

写真のように、初期消火の大切さを確認する取組も大変有効かつ危機対応力の強化にも役立っていると感じたが、生徒一人ひとりがいざという時に実践できるか、ＡＥＤの使用と同様に、活用できるだけの定着を図ることが課題である。

大きな規模での取組となるため、年に１回の合同訓練となるが、学んだことを忘れないような活動を日々の教育活動にも取り入れていきたい。

取　組　名	通学路点検		
特　　徴	教職員・児童・保護者・警察（駐在所所長）が協働した通学路点検と安全マップの作成		
学　校　名	岩国市立修成小学校	期日	平成３０年５月９日（水）

１　ねらい

保護者・警察（駐在所所長）と学校が、通学路を児童と一緒に歩き、交通事故と不審者からの被害防止の視点から、安全点検を行い、安全マップにまとめることで、事故や事件の未然防止を図る。

出発前のＫＹＴの学習

２　概　要

（１）取組の概要

育友会「補導保健部」の保護者が中心となって実施した。本校にある３つの登校班に保護者、警察、教職員が分かれて加わり、児童の下校に合わせて一緒に通学路を歩き、交通事故の防止と防犯の側面から危険箇所を見つけ、カードに書きためていく。カードに書かれたものをもとに安全マップにまとめ、児童、保護者に配付するとともに、７月に行う「地区懇談会」で活用し、地域の安全意識の高揚も図る。

通学路の危険個所の確認

（２）当日の流れ

１３：４５までに、下校できるようにしておく

１３：４５～１４：００	通学路点検始めの会 各登校班で点検場所確認
１４：００～１４：４５	通学路危険箇所点検・危険箇所撮影 子ども１１０番の家へお礼のあいさつ
１４：４５～１５：００	振り返り（カード記入） 解散

こども１１０番の家へのあいさつ

３　成果と今後の課題等

（１）成果

毎年取り組んでいる活動でもあるため、高学年の児童は、それぞれの視点からの危険な箇所が頭に入っている。そのため、日ごろ通学するときから、危険箇所には近付かないよう心がけている様子がうかがえる。

育友会の「補導保健部」は低学年児童の保護者を中心に編成されているため、入学後の早い段階で、我が子が通る通学路にどんな危険が潜んでいるか気付くことができるため、家庭での声かけに生かすことができる。

作成した安全マップは、７月末に行う「地区懇談会」で活用するのだが、そのときに、それぞれの登校班の地域の方にも参加していただくことから、児童の登下校の見守り活動に生かすことができる。

地区懇談会での安全マップの活用

（２）課題

毎年行っていることもあり、高学年児童にとっては、マンネリ化してくるため、児童の興味・関心を持続させることが難しい。

危険箇所を見つけても、改善のための方策が見つかりにくかったり、費用がかかったりするため、改善に生かしにくいことがある。

取　組　名	次々と起こる不測の事態に教職員は組織で対応できるか？		
特　　徴	シナリオにない不測の事態を組み入れた訓練により教職員の危機意識の向上を図る。		
学　校　名	長門市立俵山小学校	期日	平成３０年９月６日（木）

１　ねらい

○　連日の降雨による土砂災害及び河川の氾濫に対して、安全かつ迅速に避難する。

○　シナリオにない不測の事態を訓練の中に組み入れ、教職員の危機意識と組織的な対応力を高める。

２　概　要

（１）取組の流れ

土砂災害防止対策の推進に関する法律の改正により、土砂災害警戒区域に立地している本校にも避難訓練が義務付けられた。山口県学校防災アドバイザー２名を招いての初めての土砂災害に係る避難訓練である。教職員には想定のみ伝え、訓練の中で起こる次の３点（※１～３）は知らせずに実施した。

（２）当日の流れ

①想定

連日の降雨により校舎西側の土砂崩れの可能性が高まった。また、校舎南側の七重川の水位が上昇し校地内に流れ込む恐れがある。

②訓練

１０：１５　土砂災害警戒情報発令
　　避難開始放送　※１　予定よりも１５分早い休み時間中の避難指示
　　※２　避難の途中に児童１名が行方不明
１０：２０　避難完了　※３　負傷し動けない教員が１名
１０：３０～１１：１０　防災教室

協力を求めながら児童を探す担任

養護教諭による救命措置と補助

防災アドバイザーによる防災教室

３　成果と今後の課題等

児童・教職員ともに状況を判断しながら主体的に行動することができた。行方不明児童が発覚した時点で、担任が他の教職員に知らせながら捜索にあたる、負傷した教員の処置を養護教諭の指示により補助する等、直面した状況に対処することができた。ただ、中には１人で通報、担架の準備等何役も担った教員もあり、混乱する中でも児童管理と不測の事態への対応の役割分担を明確にし、組織的に対応するための指示の必要性を感じた。今後も、大切な命を守るための訓練を更にバージョンアップするとともに、地域の方と連携しながら実施していきたい。

防災教室では、学校防災アドバイザーから、土砂災害のメカニズムや効果的な情報の収集の仕方と早目の避難の大切さ、俵山地区の危険な箇所等について話を聞くことができた。

取　組　名	周防子どもみまもり隊や保護者との「安全・安心マップづくり」		
特　　徴	地域の見守り隊や保護者と協働しながら、校区内の危険箇所の見回り、確認を行い、安全・安心マップにまとめる。		
学　校　名	光市立周防小学校	期日	平成３０年６月６日（水）

１　ねらい

○　教職員、保護者、周防子どもみまもり隊が、児童と一緒に通学路の安全点検を行い、要注意箇所や安全な場所を把握することを通して、学校・家庭・地域が連携して、児童の登下校時の安全確認をする。

○　児童が自分たちで通学路安全マップを作成し、実際に通学路の危険箇所や安全な場所を点検することを通して、安全に登下校できるようにする。

○　周防子どもみまもり隊や交通安全指導員の方としっかり話し、感謝の気持ちを表す会も合わせて行うことで、日頃お世話になっている人々への感謝の気持ちやふるさとへの思いをもつことができるようにする。

２　概　要

（１）通学路安全マップづくりの事前準備

・保護者に、「通学路の安全の確認について」というプリントを配付し、通学路で気になるところはないかアンケートを採る。

・子どもには、毎日の行き帰りで困るところはないか見付けておくように伝えておく。

（２）通学路安全マップづくり

１３：３０～１３：５０

・周防子どもみまもり隊の方や交通安全指導員の方に児童も自己紹介を行い、日頃の様子や困っていること、注意したらよいことなどを情報交換する。

・地区ごとの小さなマップを見ながら、登校班ごとに話合いをする。

・通学路をなぞり、危険箇所に印を付けて、危険なことや内容を付箋に書き込む。

・地区ごとの大マップに、危険なことの内容を書いた付箋を貼り付け、その場所を、マップ上に分かりやすく示す。

・登校班ごとに、危険箇所を発表し合い、みんなで把握できるようにし、子供１１０番の家も確認する。

１３：５０～１４：０５

・周防子どもみまもり隊への感謝の集い

（３）一斉下校の会及び、安全確認下校

１４：１５～１４：２０

・通学路の危険箇所を確認しながら下校する。
（児童・教職員・保護者・周防子どもみまもり隊）

・話合いで出た意見を中心に、実際の場所を確認し、対策を話し合いながら下校する。

・下校時に写真を撮って、マップに示せるようにする。

３　成果と課題等

子どもたち自身が、通学路の危険箇所について、改めて確認することができたので、次の日から気を付けることが具体的になり、とても有意義だった。

保護者や子どもたちが地域の方と直接話したので、互いに顔の見える関係をつくることができ、より安心感をもって過ごすことができるようになった。

地域の方と危険箇所を見て回ることで、地域の安全のために環境改善をしたほうがよいところは、早速、地域活動に取り入れたり働きかけをしてくださったりした。実際改善されたところもたくさんある。今後は、保護者が参加しやすい方法を考えていくことが課題である。

取　組　名	「自分たちの住んでいる町を知ろう」～災害図上訓練（ＤＩＧ）を通して～		
特　　徴	地域防災をテーマとした小中学生参画による福川中学校区合同学校運営協議会		
学　校　名	周南市立福川中学校	期日	平成３０年８月２日（木）

１　ねらい

○　小中学生の参画により、福川中学校区合同学校運営協議会の充実を図る。

○　災害図上訓練（ＤＩＧ）を通して、地域の危険箇所を知るとともに、防災資源等を確認し、防災意識及び防災ネットワークの形成を図る。

ＤＩＧとは？

２　概　要

（１）取組の流れ

平成２８年度に地域と学校が連携した小中合同防災訓練（煙霧体験や給水体験等）を、昨年度は周南市地域ぐるみの防災キャンプ（福川中体育館で避難所生活体験）を実施した。

今年度は、防災教育の継続と地域防災の一層の活性化を目的として福川中学校区合同学校運営協議会での災害図上訓練（ＤＩＧ）を実施することとなった。

（２）当日の流れ（13:35～15:35）

講師：周南市防災アドバイザー　城　　浩之　様

①東日本大震災の実際のＤＶＤの視聴

②福川地区の防災に関する講話

③アイスブレーキング（１人３０秒で）

「名前」「好きな食べ物」「どんな災害を知っているか」

④災害図上訓練（ＤＩＧ）

・班構成…福川中学校区３ブロック（計１０班）

・準備物…Ａ１×２倍の白地図、ハザードマップ（津波、洪水、土砂災害、高潮の４種類）、発表用用紙、マジック一式、付箋一式

ア　ＤＩＧについての簡単な説明と進行ルールの説明（講師）

イ　活動、意見交換（熟議）

・町の構造（鉄道、主要道路、路地、広場、公園、オープンスペース、水路・河川・海等）

・物的防災資源等（官公署・医療機関等、防災上プラスに働く施設設備等）

等を順番に白地図に着色作業・意見交換

ウ　発表

・前半…「強み」「弱み」「自然」

・後半…作成したハザードマップから思うこと

エ　まとめ（講師）

アイスブレーキング

活動（町の構造等の着色）

意見交換（熟議）

３　成果と今後の課題等

（１）成果

初めて福川中学校区合同学校運営協議会に小中学生の参画が実現し、児童生徒の視点からの貴重な意見を聞くことができ、地域の方、教職員、児童生徒が一堂に会して熟議する貴重な時間となった。また、災害図上訓練（ＤＩＧ）により「災害を知る」「町を知る」「人を知る」ことで、地域の防災力、災害への強さ、弱さを認識し、防災に対して今後どのように対応していけばよいのかを理解する一助となった。

各班発表

（２）課題

今回の取組を次に繋げるステップとしてどう考えていくか、形を変えた継続した地域防災としての取組・事業を地域ぐるみでどう実践していくかが今後の課題である。

取　組　名	地域と連携した防災避難訓練		
特　　徴	○　通常の避難訓練に加え、近隣の幼稚園児を誘導する避難訓練の実施。 ○　あらゆる状況に対応するための、避難所運営ゲームの実施。		
学　校　名	下松市立末武中学校	期日	平成３０年１１月２７日（火）

１　ねらい

○　安全に迅速に避難できる習慣を身に付ける。
○　災害・危機状況発生時の対応法を理解する。
○　災害発生時に、中学生としてできる活動に携わる姿勢を身に付ける。

２　概　要

（１）津波を想定した避難訓練

①津波警報後に、最上階に避難する。
②鋼鈑幼稚園の園児を中学生が誘導（園児１２５名に対し、中学３年生１２５名が迎えに行く）し、園児を連れて、最上階に避難する。
※誘導する上で怪我のないよう、園児の歩くペースに合わせたり、階段の昇降時に気を付けたりするなどの配慮を行った。

（２）講　話

下松市総務課防災危機管理室職員を招へいし、災害に備える方法や、非常時の対処について話を聞いた。
テレビのデータ放送、スマートフォンのアプリが情報収集に有効であることや、被災地域内での直接連絡は通じにくいので、他地域で情報を知らせ合う共通の知人を決めておくとよいことなど、実際に災害に遭遇した場合に役立つ内容であった。

（３）ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）

下松市総務課防災危機管理室職員の主導で、代表生徒１４名、教職員７名、コミュニティ･スクール推進委員６名、計２７名を６グループに分け、末武中学校が避難所になった場合のシミュレーションをゲーム形式で行った。身体の不自由な方、妊婦の方や犬を連れてきた被災者が訪れた場合など、様々な状況を想定して、避難所をどのように運営していくか、話合いを深めた。

３　成果と課題

（１）成果

・災害発生時の対応を全校生徒に周知することができた。
・災害発生時に社会に貢献することを、生徒に意識付ける一助となった。

（２）課題

・訓練開始時から、一部の生徒が幼稚園児を誘導避難する間、残った生徒は長時間、待機しなくてはならない状況であった。
・中学校から見て幼稚園は南側に位置する。津波の想定であったにも関わらず、海側に向かって中学生が園児を迎えに行くことは、生徒の安全管理の面で課題が残る。

取　組　名	組織活動の充実（熱中症の未然防止及び生徒会によるケガＭＡＰの作成等）		
特　　徴	生徒による安全活動の推進と、地域・保護者の協力を得た取組		
学　校　名	柳井市立柳井西中学校	期日	平成３０年９月９日（日）

１　ねらい

○　教職員と地域・保護者が連携・協働することにより、学校教育活動における生徒の熱中症の未然防止を図る。

○　安全に関する自主的な生徒会活動の推進を図る。

２　概　要

（１）熱中症の予防についての研修会の開催

・養護教諭を講師とした研修会を開催し、職員・生徒とも熱中症についての知識を深めた。また、発症時の応急処置の方法や、連絡・指示系統などの確認などの対応についてシミュレーションを行った。大型ミストを購入し、生徒玄関に設置・稼働させた。

・生徒に対しても、熱中症の予防についての知識を高めるため、保健体育科教員や養護教諭による授業を行った。（全校集会）

生徒玄関に設置された大型ミスト装置

（２）専門的な知識や技能をもつ保護者や地域の方の協力を得た取組

・看護師や救急救命士として現場で活躍されている保護者や地域の方に協力を依頼し、養護教諭のスキル向上のための研修会の実施や、体育祭当日の救護係の補佐・アドバイザーとして活動していただく体制を構築した。

（３）保健委員会生徒を中心とした「ケガＭＡＰ」作成、「安全点検」の実施

・保健委員会が全校生徒を対象に校内の危険箇所やケガをした場所のアンケートを実施。その結果を１枚のマップにまとめ、ケガの未然防止を呼びかけた。また、アンケートで明らかになった危険箇所は委員会生徒で修繕を試みている。

・保健委員会生徒による定期的（二か月に一度）な安全点検を実施し、その結果を翌月の全校集会で発表している。

・保健委員会生徒による活動として、熱中症警戒レベルの掲示物を作成し、生徒玄関に掲示し、熱中症の危険度が一目でわかるように工夫した。

保健委員会生徒作成の「西中ケガＭＡＰ」

３　成果と今後の課題等

熱中症予防に関する知識や技能を教職員・生徒が身に付けるとともに、専門的な知識や技能のある方の支援を受ける事により、養護教諭のスキルアップが図られたと同時に熱中症発症時における組織的な対応を展開することができた。また、ここで受けた支援をきっかけに、生徒の安全に対する意識が高まり、校内の危険箇所マップの作成や安全点検など、生徒による自主的な活動の展開につながった。さらに生徒の視点からの危険箇所の発見や生徒自身の修繕活動を通して、危険予測・危険回避の意識が高まった。

教職員・生徒の安全意識や危機意識の高揚を図るため、専門的な立場からの支援がこれからさらに必要になってくると思われる。

取　組　名	救命講習「心肺蘇生法とＡＥＤの使い方」について講義及び演習		
特　　徴	教職員・生徒全員が心肺蘇生法とＡＥＤの使い方について演習を行う		
学　校　名	光市立室積中学校	期日	平成３０年７月１９日（木）

１　ねらい

○　講義・実習を通して、第一発見者となった場合に、迅速な対応がとれるようにする。

○　子どもの時期から繰り返し救命法を学ぶことで、生涯にわたる有用なスキルとして定着を図る。

○　人の命を救うことを学ぶことによって、自他の命を大切にする心や共助の精神を育む。

２　概　要

（１）場　所　　本校　武道館

（２）講　師　　徳山中央病院　集中治療科　宮内善豊医師

（３）対象者　　２校時　１年生（53名）、１年部教員他（7名）
　　３校時　３年生（48名）、３年部教員他（6名）
　　４校時　２年生（51名）、２年部教員他（6名）

（４）講義・演習（５０分間）

【講義】（１０分）

・心臓のしくみやはたらき、また、心停止したときの心臓の状態（特に、「心臓しんとう」）について説明を聞く。

・実演を交えながら、心肺蘇生法とＡＥＤの使い方について説明を聞く。

【演習】（３５分）

・各学年３グループ（１グループ１２人～１４人）に分かれて演習を行う。

・第１発見者、協力者など役割を交代しながら、全員が心肺蘇生法とＡＥＤの使い方について演習を行う。

・教職員も生徒のグループに加わり、指導助言を行いながら、自らも演習を行う。

【講評】（５分）

・講師から、演習を通しての気付きやアドバイスをいただく。

３　成果と今後の課題等

昨年度から全校生徒･教職救急救命講習を受講する体制にした。（一昨年度までは委員会活動として実施）

男女混合のグループであったが､生徒は互いに協力しながら積極的に演習に取り組んでいた｡講師や養護教諭が活動の様子を見守るとともに、各グループで教職員が一緒に演習をしたことが活動の活性化につながったと感じる。演習用の模型が３体であったため（昨年度は８体）十分な演習ができるかどうか不安要素もあったが､全員がひととおりの演習をすることができた。

２・３年生は昨年度の経験から、スムーズに演習に取り組め、講師からお褒めの言葉をいただいた。

今後も継続的に実施することで知識やスキルの定着を図るとともに、実践力を高める工夫（例えば、避難訓練時に要救助者を設定する等）を協議していきたい。

取　組　名	災害時のロープワークや搬送法について		
特　　徴	日本赤十字社山口県支部と連携した防災教育		
学　校　名	県立光高等学校　定時制	期日	平成３０年１２月１８日（火）

１　ねらい

災害時のロープワークや搬送法の実習を通じて、自らの命を自ら守るために主体的に行動できる力を育むとともに、周囲の人や社会の安全に貢献できる力の育成を図る。

ロープワーク（１）

２　概　要

（１）取組の流れ

日本赤十字社山口県支部と連携し、赤十字の防災・減災のノウハウを本校の防災教育に活用することで、災害時に活きる知識や技能の育成を図ることを目的に活動を展開した。定時制生徒の実態をふまえて教員間で協議した結果、赤十字防災講習の中でも、実習を伴う内容の「ロープワークと搬送法」を選択し、実施した。

ロープワーク（２）

（２）当日の流れ

本校生徒を２グループに分けて実習を実施

１７：４０　Ａグループ　ロープワーク
　　Ｂグループ　搬送法
１８：００　Ａグループ　搬送法
　　Ｂグループ　ロープワーク
１８：２５　実習終了

３　成果と今後の課題等

（１）成果

本校の防災教育は、講義型のものが多かったが、今回実習という形で行うことで、生徒たちが意欲的に取り組む姿勢が見られた。また、山口県赤十字防災奉仕団の方々による実際の災害現場で活きる知識や技能に触れ、また体験することで充実した防災教育となった。実習を通じて、自らの命を自ら守るために主体的に行動できる力を育むとともに、周囲の人や社会の安全に貢献できる力の育成につながった。

搬送法（１）

（２）課題

学校における防災教育には、外部の教育力を積極的に活用するべきだと、改めて感じた。また、講義型ではなく、実際に体を動かしながら、知識や技能を自分のものとして習得していくことで、災害時に積極的に行動できる力を今後も育んでいく必要がある。さらに、災害時には避難場所になるなどの中心的な役割が求められる学校に勤める教職員も、積極的に防災に関する情報収集や研修を行わなければならないと感じた。

搬送法（２）

取　組　名	山口県や自分の住んでいる周辺地域の災害を知って、自分の身を守ろう		
特　　徴	県の「山口県災害教訓」と市の「ハザードマップ」を活用した安全教育の実施		
学　校　名	県立小野田高等学校	期日	平成３０年２月１５日（木）

１　ねらい

生徒が、身近に起きる災害や緊急避難場所等を知ることで、防災意識や自分の命を守るための対応能力を高める。

２　概要

（１）取組の流れ

本校では、これまで各種「避難訓練」や、「危機回避対応教室」を実施することにより、生徒のさまざまな危機対応能力を高めてきたが、生徒の在宅中を想定したものではなかった。

生徒に聞いてみても、自宅周辺の緊急避難場所さえ知らない現状も見えてきた。そこで、自分の住んでいる山口県や自宅周辺地域の災害情報を自ら調べ把握することで、より現実的で実効性の高い対応につながると考え実施することとした。

（２）作業手順と方法

①事前に各自スマートフォンを準備
②スマートフォンで山口県の過去の災害を検索
③同じくスマートフォンで自宅周辺のハザードマップを調べ、災害時の危険度を知り、自宅から学校までの「緊急避難場所」を確認
その後、提出プリントの学校提出用のみを記入し、提出
（家庭確認用は自宅に持ち帰り、家族と話し合って改めて提出）
④最後に、学校での被災に備え、クラスの効率の良い「点呼方法」を決定

スマホで検索中

（３）当日の流れ（※別紙指導案参照）

14:55 着席、スマートフォン準備
　　作業プリントの配付
15:00 放送開始
　　作業Ⅰ：山口県の過去の被害を知る
15:10 作業Ⅱ：ハザードマップを開いて、緊急避難場所を書き込む～プリント「提出用」を担任が回収～
15:25 作業Ⅲ：クラスごとの点呼方法を再考
15:40 終了

同じ地区の生徒同士で話し合い

３　成果と課題等

（１）成果

この学習で、「自分の住む身近な地域でどんな災害が起こりうるかということ、また、在宅中や登下校中はどこに避難したらよいかなどを知ることができてよかった。」という生徒の意見が多く聞かれた。家庭で話し合ったことも家庭の防災意識を高める上で、大きな成果があった。また、学校としても、生徒の自宅周辺の避難場所を確認できたことで、大規模災害時の生徒の安否確認連絡場所を把握できることとなった。

（２）課題

一斉に同じサイトを開いたため、中にはつながりにくく、作業がなかなか進まない生徒もいた。次回は改善策を考えたい。また、国や県、市町が発信しているこうした情報を、積極的に活用する教育に発展させていくことも大切であると感じた。

安全教育指導案

Ｈ３０．２．１５（木）７限

１　ねらい

本校生徒は、避難訓練を通して地震・津波等の対応はよく知っているが、実際山口県にはどんな災害が多いのか、また、自宅周辺地域の危険性や緊急避難場所については意外と知らない。そこで、身近に起きる災害や緊急避難場所等を知ることで、防災意識や自分の命を守るための対応能力を高める。

２　作業

（１）山口県ではどんな災害が起きてきたかを知る。
（２）自宅周辺のハザードマップで、災害時の危険度を知る。
（３）自宅～学校の緊急避難場所を確認する。
（４）クラスで効率の良い「点呼方法」を再度決める。

３　当日の流れ

14:55　着席、スマートフォン準備。作業プリントの配布。
15:00　放送開始 作業Ⅰ：山口県の過去の被害を知る
15:10　作業Ⅱ：ハザードマップを開いて、緊急避難場所を書き込む
～　プリント「提出用」を担任が回収する　～
15:25　作業Ⅲ：クラスごとの点呼方法を再考する
15:40　終了

４　時系列指導内容等

１４：５５

担任は、生徒にスマートフォンを準備させ、電源ONにさせ、着席させる。
さらに、「作業プリント」を全生徒に配布する。

１５：００　＝　**放送開始**

●ただいまから、安全教育を始めます。
●今日はスマートフォンを使用しますが、準備はできていますか。
本時のねらい、生徒の作業内容について簡単に説明

１５：０１

●本日の趣旨や目的がわかりましたか？命にかかわることですので、真剣な作業をお願いします。
●では、まず始めに、山口県での過去の災害被害について調べてみましょう。
●スマートフォンで、「山口県災害教訓」で検索してください。*「山口県災害教訓」を検索するよう指示する。*
●開けたら、さらに「山口県の風水害」というＰＤＦをクリックしてください。

１５：０２

●少しスクロールして中身を見てください。山口県は昔から豪雨や台風による被害を頻繁に受け、被害が大きいものも多くあります。
●近年では、平成１１年台風による宇部空港水没、平成２１年豪雨による山口・防府地区の大水害、平成２２年豪雨による厚狭地区の水害、平成２５年大雨による萩市水害などと、立て続けにありました。
●体験談にもあるように、被害住民にとっては全く予期せぬ出来事でした。

１５：０６

●では、一旦その画面は消して、次に「山口県の地震・津波」というＰＤＦをクリックしてください。
●開けたら、まず、見出しのページを見てください。そこに書いてあるように山口県は地震による被害は比較的少ないのですが、平成９年には震度５強の、平成１３年には震度４の揺れを観測しています。
●今後、南海トラフ地震が３０年以内に７０％の確率で起こると予測されています。そのほか、安芸灘～伊予灘地震や、活断層による地震もいつ起こるか予測がつかない状態にあります。

１５：０９

●はい、では一旦画面を元に戻して、話を聞いてください。
（少し間をおいて）
●今見たように、山口県においても、過去、風水害や地震によって、甚大な被害があったことが分かったと思います。今後も、いつ、なんどき起きるかわかりません。
●共通して言えるのは何かあったら、「率先避難者」となるように努めることです。
この文言で 、担任は黒板に「率先避難者」の文字を大きく書く。
（間を置く）
●そこで今日は、あなた方の、学校外での「避難場所」を確認していただきます。

１５：１０

●では、これからの作業について説明します。
●まず、「作業プリント」を見てください。プリントにある、避難場所の表を埋めてもらいます。
●「提出用」と「家庭確認用」の両方に同じことを記入します。
●完成したら切り離して、「提出用」は担任へ提出し、「家庭確認用」は自宅に持ち帰ります。
●自宅に持ち帰った「家庭確認用」は、必ず家族で内容を確認し合ってください。そして、もし、内容変更がありましたら、その「家庭確認用」に朱書きで訂正し、再度担任へ提出してください。
●そのための作業手順は、これから担任の方から説明があります。では、担任の先生方宜しくお願いします。

≪ここからは、担任が実施する。≫

①スマートフォンで、自宅のある市の「緊急避難場所」のサイトを開かせる。

◎例えば、山陽小野田市の生徒は「山陽小野田市緊急避難場所」で検索、宇部市であれば「宇部市緊急避難場所」で検索するよう指示する。

（※注）それぞれの市で表示の仕方は違うが、避難場所と同時にハザードマップも表示されると思われる。災害時に自宅が水没したり、土砂災害警戒区域になっているかどうかも確認させる。

②各自、その画面を見ながら、プリントの表の項目をそれぞれ埋めさせる。わからなければ、同じ地区の友達と相談しながら作業させる。

◎「登下校中」の欄は、登下校時の経路をたどらせながら、「家に近い時」「学校に近い時」「家と学校の中間点」にある避難所を記入させる。

③完成したら、切り離させて、「提出用」のみ担任が回収する。

１５：２５　に終了させる。

１５：２５

●では、やめてください。

●次に、前回の避難訓練で、クラスごとに「点呼方法」を考案し実践してもらいましたが、その時の検証もふまえ、再度「点呼方法」を考案する作業をおこないます。

●今日決める点呼方法が、今年度の災害等が起きた時の点呼方法となりますので、クラスでよく話し合い、全員一致の行動がとれるようにしておいてください。

●学級委員は前に出て、進行役をお願いします。

この文言で 、担任は学級委員を前に出させ次の手順で行わせる。

＝　放送終了

（１）前回の「点呼方法」を確認させる。（前回どうやったかを確認）

（２）前回の点呼方法について、数人を指名し、賛否の意見を発表させる。

（３）こうした意見を踏まえて、再度「点呼方法」を決定させる。
前回のままでよいクラスはそのまま。改善の余地があるクラスは新案を決めさせる。

１５：４０　終了。

家庭で確認！日頃からの備え【提出用】

大規模災害発生時の避難場所や連絡方法について、家族で確認しておこう！

自分が住んでいる地域で想定される災害は

【避難場所は？】

災害発生時の状況		避　難　場　所
登校中	家に近い時	TEL:
	家と学校の中間点	TEL:
	学校に近い時	TEL:
家にいる時		TEL:

き　り　と　り　線

家庭で確認！日頃からの備え【家庭確認用】

大規模災害発生時の避難場所や連絡方法について、家族で確認しておこう！

自分が住んでいる地域で想定される災害は

【避難場所は？】

災害発生時の状況		避　難　場　所
登校中	家に近い時	TEL:
	家と学校の中間点	TEL:
	学校に近い時	TEL:
家にいる時		TEL:

取　組　名	危機に対応する主体的態度・自助行動の育成		
特　　徴	事前に日時等を告げない避難訓練と振り返り、シェイクアウト訓練		
学　校　名	県立響高等学校	期日	平成３０年１０月１６日（火） １１月　１日（木）

１　ねらい

事前に日時・場所等を告げない避難訓練を実施し、生徒に避難経路を考えさせるとともに、訓練終了後に自らの行動に対する「振り返り」を行うことで、今後の的確な思考・判断を伴った自助行動につなげる。

また、「津波防災の日」の一環として１１月１日（木）に実施された緊急地震速報訓練にあわせた「シェイクアウト訓練」を実施して、地震の際の生徒・教職員の安全確保行動・危機対応力を身に付ける。

２　概　要

（１）事前に日時等を告げない避難訓練

・生徒及び教職員には、１０月１５日（月）からの週に火災避難訓練を行うことだけを通達した。
・訓練実施は２学期中間考査最終日（１０月１６日（火））、出火場所は化学教室とした。
・火災報知ベルを鳴らし、出火場所を事務職員が確認する訓練後、グラウンドへの避難の指示を放送した。
・避難完了後に、校長が「命を守る訓練である」など、訓練の意義や重要性を話した。
・講評後、生徒は教室にもどり、シートをもとに振り返りを行った。

（２）シェイクアウト訓練

・生徒には１０月２９日（月）からの週に地震対応訓練を行うことだけを通達した。
・地震が起きた場合は、安全確保行動１－２－３「まず低く、頭を守り、動かない」を、啓発チラシにより担任から生徒に事前周知した。
・訓練では、緊急地震速報のチャイム音に続けて安全確保行動の指示を放送した。
・指示に従い、生徒・教員・事務職員全員が机の下に頭を隠した。
・揺れが収まるまで(約１分間)じっと待った。
・訓練終了後に、シェイクアウト訓練のねらい、日頃からいざというときの行動を考えておくことを、教頭が放送で話して終了した。

３　成果と今後の課題等

本校では初めてとなる「事前に日時等を告げない避難訓練」を短期間で２回行った。

終了後の「振り返り」によると、火災避難訓練では、今後も事前周知しない訓練が必要であることや自ら判断した避難経路に対する反省などが見られ、自助行動の意識向上に効果的であった。

シェイクアウト訓練は、地震の被害がニュース等で報道されていることで身近な災害との認識に加えて、訓練が短時間であったため、生徒の行動はよかった。地震や大雨の被害が日本各地で起こっている今日、生徒の災害に関する意識向上になれば幸いである。

ここ数年、地元消防署を呼んで１時間かけての避難訓練を年に２～３回行っているが、今回のシェイクアウト訓練であれば、各学期に１回の頻度で行うことも可能である。

教室での安全確保行動

安全確保行動は事務室でも！

取　組　名	津波に対する実際的な避難方法、経路及び場所の確認と迅速な避難訓練		
特　　徴	津波に対する避難訓練を校外に及ぶものとして実施する。本校の指定避難所である長門市立仙崎中学校への避難訓練を実施することにより、実際的な避難方法を確立する。		
学　校　名	県立大津緑洋高等学校水産校舎	期日	平成３０年７月１３日（金）

１　ねらい

本校は、津波到来時間の違いにより避難場所を変えている。津波到来時間が２０分未満の場合は、直接特別教室棟４階へ避難することとしており、これに対する避難訓練は昨年度、実施した。そこで、本年度は、津波到来時間を２０分以上と想定し、津波に対する本校の指定避難所である長門市立仙崎中学校への避難訓練を実施することにより、昨年度の訓練と合わせて、津波に対する実践的な避難方法を確立するとともに、訓練が校外に及ぶものであるので、安全かつ迅速に行うことをねらいとした。

２　概　要

（１）日　　時　平成３０年７月１３日（金）
　　８：４０～　９：３０
（２）会　　場　本校運動場　→　長門市立仙崎中学校運動場
（３）対 象 者　全校生徒及び全教職員
（４）内　　容　避難指示の後、一次避難所である本校運動場に全員が避難し点呼後、二次避難所である長門市立仙崎中学校運動場に避難し点呼する。
（５）当日の流れ

８：４０　各クラスで訓練内容の説明
８：４５　訓練開始
８：４６　緊急地震速報発令
８：４７　避難経路の安全確認
８：５０　本校運動場に避難開始
８：５５　本校運動場避難　点呼・報告
８：５７　緊急津波警報発令　長門市立仙崎中学校運動場に移動開始
９：１５　長門市立仙崎中学校運動場避難　点呼・報告
９：１８　緊急津波警報解除
９：２７　講評（校内放送による）
９：３０　訓練終了

３　成果と今後の課題等

初めての校外に及ぶ避難訓練であったが、安全かつ迅速に実施できた。２の（５）に示した当日の予定の時間帯よりも、全てにおいて、短縮して実施できた。このことにより、２０分の時間設定が適当で、時間により避難場所を変え、より安全を確保することができそうである。今後は事前に日時等を告げない避難訓練を実施する必要がある。

【長門市立仙崎中学校までの避難経路】

取　組　名	地域と連携した自転車通学路点検ワークショップ		
特　　徴	高等学校と市民団体うべ交通まちづくり市民会議（通称：うべこまち）と連携した自転車通学環境に関するワークショップ		
学　校　名	県立宇部工業高等学校	期日	平成３０年１１月２９日（木）

１　ねらい

地域と学校が連携して、自転車通学路を実際に走行し通学路の状況を体験・観察して、問題点と改善策について話し合う。

２　概　要

うべ交通まちづくり市民会議は２０１０年に設立された市民団体で、市民自らが行動変革を促す活動を実行することにより、地域の交通環境の改善を図ることを目的として、設立以来様々な活動に取り組まれている。

中でも「自転車まちづくり」活動は、市民が車に過度に依存せず、エコで健康的な自転車を安全・快適に利用できる環境整備を、持続可能な賑わいのあるまちづくりに欠かせない重要活動と位置付けて継続的に活動されている。

今回の活動内容は、本校生徒と市民団体が一緒に自転車で実際に通行し、得られた情報を基にワークショップを行い、専門家のアドバイスを受けながら通学路の危険箇所の点検、安全ルールや正しい走行方法などを確認し、全ての人が安全にルールを守れるようなまちづくり・道路づくりについて協議を行った。

次に、このワークショップに参加した生徒が、安全ルールやまちづくりについて、自ら考え感じたことを学内で発信・共有することにより、生徒全員の安全意識の向上と事故防止につなげていきたいと考えている。

通学路の確認

ワークショップの様子

実施時間：１６：００～１８：３０
参加者：宇部工業高校生徒会役員
　　生徒会顧問
　　うべこまち関係者
　　山口大学工学部村上研究室
　　宇部市道路整備課

３　成果と今後の課題等

今回、生徒会役員が中心となって自転車通学路実走のワークショップを経験し、成果をとりまとめ（図）、今後全校集会（３月実施）で生徒会役員から発表する予定である。

全校集会で、生徒会役員の経験や理解を学校内で共有し生徒自らの交通安全の意識を高めていきたいと考えている。

図　ＪＲ駅利用生徒の危険箇所通学ルートマップ

取　組　名	ＡＥＤを用いた心肺蘇生法を含む応急手当講習会		
特　　徴	１年生と希望教職員を対象とした消防署員による応急手当講習会		
学　校　名	県立美祢青嶺高等学校	期日	平成３０年９月１２日（日）

１　ねらい

応急手当の意義や手順、ＡＥＤを用いた心肺蘇生法を理解し習得することで、主体的に社会の安全に貢献できる力を育成する。

２　概　要

（１）取組の流れ

ＡＥＤの正しい使い方や心肺蘇生法を含む応急手当を専門家から学ぶことにより、緊急時に落ち着いて速やかな対応ができることが期待される。また、事前に保健の授業において理論を学習することにより、効果的に知識や技能の習熟を促した。

教職員においても、生徒が安全に学校生活を送ることができるよう、積極的な参加を促した。

（２）当日の流れ（美祢市消防署員４名による講習）

①理論

１３：２５　ＤＶＤ視聴

②実践

１３：４５　胸骨圧迫
１４：０５　人工呼吸
１４：２０　ＡＥＤ使用法
１４：５０　ロールプレイ（応急手当の手順）
１５：２０　止血法
１５：３０　搬送法
１５：４０　気道異物除去法

③振り返り

１５：５０　資料配布
１６：００　講習会終了

胸骨圧迫

人工呼吸

ＡＥＤ使用法

３　成果と今後の課題

（１）成果

ロールプレイでは、心肺蘇生法を含む応急手当の手順を理解し、実践することができた。傷病者の容態を確認するポイントや代用品の具体例等、実践で感じた疑問や問題を消防署員へ質問する姿や、要点や改善点を生徒同士で教え合う意欲的な姿勢も見られた。また、十数名の教職員も講習会に参加し、生徒の安全に配慮する意識を高める機会となった。

（２）課題

応急手当の方法論を学ぶことはできたが、生徒の実生活との関連性を意識させて、実際に落ちついて速やかに実行できるためには、各生徒の身の回りで起こりうる傷害や傷病者等の場面設定をより詳しく行い、現実的な現場対応力として身に付ける必要がある。また、生徒が安全に学校生活を送るために、より多くの教職員にも同様の研修を実施することで、理想的な組織を構築すべきである。安全で安心な社会を担う人材の育成に向けて、これらのことを次年度以降に生かしたい。

取　組　名	地震・津波対応机上シミュレーション		
特　　徴	想定される事態と対応について、参加者全員が時系列で問題点を共有することができる		
学　校　名	県立山口南総合支援学校	期日	平成３０年８月６日（月）

１　ねらい

○　想定される地震・津波が実際にどのような影響を起こすか理解する。
○　地震発生から保護者への引き渡し完了までの流れと指揮系統を理解する。
○　学校でできることとできないことを確認し、できないことへの対応を考える。
○　各自の立場での動き、対応を考える。

２　概　要

本校の幼児児童生徒は、県内各地より通学して来ており、遠方の生徒には寄宿舎を利用している生徒もいる。大規模災害時では、保護者引き渡しが完了するまで、教職員と残留幼児児童生徒が学校に２泊～３泊することが想定される。以上のことを踏まえ、通常の幼児児童生徒を主体とした避難訓練では事態に対応できないと考え、３年前から別個に教職員を中心とした机上シミュレーションを導入した。今年度は近隣地区の防災士の指導を受けて、学校運営協議会委員も同席して行った。

（１）シナリオ

・１０：４０に震度５強の南海トラフ地震発生、地震発生から２時間で４メートル強の津波が沿岸に到達、それに伴う本校の動きを発生から６時間までたどる。
・シナリオに盛り込んだ内容
①発生時の授業場所での動きと第１避難場所（グラウンド南側）への避難のタイミングと動き
②津波発生でセミナーパーク第５駐車場への二次避難の動き（指揮系統の確認）
③津波が引き、引き渡し場所への移動と設置手順（指揮系統の確認）
④非常食の配布時期、トイレや水の確保、負傷者への対応（指揮系統の確認）
⑤翌日に備えて帰宅する教職員と幼児児童生徒と泊まり込む教職員の手配手順、保護者や教職員家族への連絡確認（指揮系統の確認）
⑥地域の動き、ライフライン、交通網の状況まで綿密に想定。
⑦天候快晴　気温３６度、湿度７０％、風速０メートルで想定（昨年度は冬バージョンで設定）

（２）実施形態

・夏季休業中、全校教職員、学校運営協議会委員参加で体育館にて実施。（当日参加７７名）
・シミュレーション地図を四方で囲むように席を配置。
・司会が時系列で進行を進めながら、想定されるトラブルや問題点を各方面に質問して対応を考えていく。（トラブル等のシナリオは知らせず行った。）
・司会の進行に合わせて、地図上の駒を動かして現在の位置を把握できるようにした。

（３）アドバイザー、地域との連携

・鋳銭司支所の職員、近隣施設の職員、名田島・二島地区防災アドバイザーも参加

３　成果と今後の課題等

・設定をかなりリアルにしていたため、参加者には現実とリンクして真剣に考える機会になった。
・各場面での指揮系統や校外学習中、外出や出張時の対応についても考えることができた。
・引き渡し完了まで、地域とどこまで協力し合えるか、支援物資について自力でどこまでやらなければならないのかが見えてきた。
・教職員の家族安否、帰宅せざるを得ない教職員への対応、翌日の交代要員として帰宅させる教職員への指示時期の確認ができた。
・荒天時での避難場所や投薬の必要な幼児児童生徒への対応等、想定を工夫して繰り返しシミュレーションを実施して検討していく必要性を感じた。

取　組　名	シェイクアウト訓練を取り入れた避難訓練（地震）		
特　　徴	○　事前に期日を知らせない避難訓練 ○　シェイクアウト訓練に基づいた安全行動 ○　自治会、保護者の訓練参加		
学　校　名	県立下関南総合支援学校	期日	平成３０年９月１８日（火）

１　ねらい

○　本校敷地内が土砂災害特別警戒区域に指定されていること、また、本校体育館が下関市指定避難所に指定されていることから、地域の方に避難場所等の確認をしていただき、非常時に避難を円滑に行えるようにする。

○　幼児児童生徒の実態によって安全な避難及び対応をして、幼児児童生徒の安全確保方策、教職員の役割分担や組織活動の推進を図る。

２　概　要

（１）事前に期日を知らせない避難訓練の流れ

・シェイクアウト訓練の音源を校内放送で流す
・音を聞いたら授業場所で頭部を保護する（Drop,Cover,Hold on）
・地震の音(揺れ)が止まったら、ヘルメットを装着して落下物に注意して避難
　（ヘルメットがない場合はカバンなどで頭を保護する）
・第一次避難場所（運動場中央）に集合する。人員点呼し主事に伝える
・運動場が危険という対策本部の指示で第二次避難場所（体育館）に移動し、全校集会の隊形に並ぶ
・担任が保護者に幼児児童生徒を引き渡したという想定で主事に報告し、引き渡し確認証一覧表にチェックをしてもらう
・自治会長からの講評
・校長の講評

（２）避難時におけるヘルメットの着用

・安全行動を行い、揺れのおさまりを確認した後、教室に保管してあるヘルメットを装着して避難する

（３）自治会、保護者の訓練参加

・自治会、保護者に事前に訓練の日時を知らせ、幼児児童生徒と一緒に実際の訓練に参加する

３　成果と今後の課題等

事前に日時等を知らせない避難訓練を幼児児童生徒の実態に応じて実施した。また、本年度からシェイクアウト訓練の音源を流し、音声ガイダンスに基づいて安全行動（三つの動作）をとり、その後、教室内に保管してあるヘルメットを装着して、避難訓練を行った。

訓練に関しては、音声ガイダンスに従いながら、教員の声かけにより三つの安全行動をとり、ヘルメットを装着して避難をすることができた。避難経路を事前に確認していたこともあり、落ち着いて、安全に避難をすることができた。

また、本年度の新たな試みとして、自治会・保護者の方々も訓練に参加して、実際の訓練の様子を確認してもらうことができた。訓練後は、本校に備蓄してある物資について紹介することができた。自治会や保護者から訓練内容や災害時における準備について一定の評価をしていただいた。

今後の課題としては、ヘルメットは全校幼児児童生徒教員分の数を各教室に保管してあるが、教室以外の場所で災害が起こった時に、どのような対応をするかということが挙げられた。ヘルメットがない場合でも、カバンや身近にある物を利用して、頭部を覆いながら安全に避難するよう危機管理マニュアルに明記し、対応の確認を定着させていきたい。